

木崎中だより

11号

令和4年2月1日(火)
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

— 寒さに負けず コロナに負けず —

校長 稲田 正平

雪景色の始業式から始まった三学期ですが、各学年とも落ち着いた学校生活をスタートできました。2年生は1月13日(木)からの二泊三日で館岩自然の教室に出かけました。参加した生徒や引率した職員からは二日目にかんりの大雪だったとも聞きました。また、そのような厳しい環境の中でも生徒たちは自然を体感し、最終日には「滑ることができるようになって楽しい」という声が多くあったとも聞いています。最高気温が0℃程度、背の高さほどに積もった雪や降り積もった雪を除雪する様子、利用したバスもスタッドレスタイヤにチェーンを巻いて走行するなど住み慣れたさいたま市とは全く違う環境です。そうした中で2年生は順調にスキー実習に取組み、中学校生活では初めての宿泊行事を体験しました。そして発熱者やけが人が出ることもなく、木崎中としては二年ぶりの自然の教室を無事に実施することができました。また1年生は1月14日(金)に川越での校外学習に出かけました。自分たちでコースや見学地を考えて班行動をするという小学校では経験できない校外学習となりました。当日の午後1時頃であったでしょうか。一本の電話が学校に掛かってきました。「木崎中の生徒が昼食に自分の店を訪れてくれたのですが、言葉遣いや礼儀が素晴らしく、あまりにも心が温かくなったので電話しました。」とのこと。詳しく伺うと「生徒さんを二階に通したのですが、注文の品を運んでくれるなど手伝ってくれて、とてもうれしくなりました。最近は嫌なニュースばかりだったので、気分がよくなりました。」という内容でした。お相手も忙しいようでしたので、電話をくださった御礼を述べて切りました。この電話を受けて私も思わずいい気分になりました。同時に木崎中生のすばらしさを感じた次第です。

1・2年生の学年行事を無事に終えた直後から新型コロナウイルスの変異株による感染が爆発的に広がり、皆さんもご承知のとおり1月21日(金)から「まん延防止等重点措置」が埼玉県を含む一都三県や各県に適用されました。3年生にとっては私立高校の推薦入試の中心日という受験の真っ最中に当たりましたが、概ね順調に受験ができました。先日、校長室掃除に来た3年生が「合格しました」と報告してくれました。「学校までは電車で乗り換えなしで行けるのですが、都内なので…」と通学に時間が掛かることと混雑の具合も心配していました。それでも中学校卒業後の自分の生活を思い描き、真っすぐ前を見つめているように感じました。

さて、1月に大流行している新型コロナウイルスの変異株による感染の拡大は、その感染力の強さから従前株の4から5倍の感染力があると言われていています。以前の感染拡大の時より小学生や中学生の感染者が多く、市内の小中学校では学級閉鎖(53校で90学級:1月24日現在)や学年閉鎖の措置が取られています。感染予防の対策としては、従来の三密の回避、換気の徹底、手指消毒、マスクの着用などが挙げられています。こうした感染対策を講じると共に、免疫力を上げることも大事なことだと思います。免疫とは細菌やウイルスなどの異物から体を守る機能のことです。私たちが免疫力を上げるためには、①代謝・体温を上げる、②質の良い睡眠をとる(朝まで安眠できる、目覚めがよくすぐに動ける、日中に眠気が出ない)、③食事に気を配り腸内環境を整える、④よく笑う、この四つがポイントとなるそうです。大寒を過ぎて、一年の中で一番寒さが厳しい時期を迎えています。寒さに負けず、また新型コロナウイルスの変異株による感染にも負けないように心身の健康に気を配りながら過ごす日々が続きます。木崎中生の一人ひとりが寒さやコロナに負けずに充実した生活を送り、学年末に向けて仲間との関係を一層深めて学校生活を送ってくれることを願っています。また、保護者の皆様、地域の皆様も十分ご自愛いただいて、毎日をお過ごしくださいますようお願いいたします。